教育学専修

小学校
コース

自分の経験と感じ方を大切にしながら。真剣なゼミ風景。

フィリピンの児童養護施設の子どもたちとのオンライン交流会の様子

教育の現実から「なぜ」「どうする」を追究する

本専修は、新たな教育・学習社会を創造する学校教員の養成を目指しています。

現代社会はさまざまな教育問題を抱え、また社会のグローバル化とともに、外国籍の子ども、経済的困難を抱える家庭の子どもなど、これまでの教員養成プログラムでは対応の難しい、新たな社会状況が生じています。また、学校の「ブラック化」が叫ばれ、教師の長時間労働が問題となるなか、子どもと教師の活き活きとした学びを保障するためには、既存の教育システム内での立ち居振る舞いを学ぶだけでなくこの既存システム自体を問い直し、改善していく視点が求められています。

本専修では、子どもを取り巻く学校、地域、家庭、行政の４つの要素を多面的・重層的に捉えて、相互の連携による新しい教育のあり方を創造しうる、広い視野と深い洞察力を持った学校教員の養成を目標としています。学生のみなさんが、教育の現実を分析し、処方し、実践していく、そのような立脚点、判断力、行動力を身につけるためのカリキュラムを用意しています。「教育学っておもしろい！」、そのように感じてもらえる専修を目指しています。

STUDENT'S VOICE

4年生
渡邊 ゆず

あなたは「教育」と聞いて何が思い浮かびますか？皆さんは今まで様々な形や場面で教育を受けてきていて、教育に対するイメージや考え方はそれぞれ違うと思います。教育というのはとても広く深く、だからこそとても面白いです。教育学専修では各専任教員の下、様々な視点から教育を考察するので、自分の新たな価値観の創造に繋がり、自分なりの“教育学”を見つけることができます。そして学校教育はもちろん、社会によりよく参加することにも繋がっていきます。

私が所属している田代ゼミではジェンダー平等やセクシュアリティという視点を持ちながら、学校教育を含んだ社会の「当たり前」や「常識」を問い直しています。仲間と議論しながら、日々楽しく有意義な時間を過ごしています。

また、教育学専修ではバレーボール大会や遠足などのイベントも充実しており、仲間と楽しい時間を過ごすことができます。ぜひ教育学専修で一生モノの仲間と一生モノの時間を過ごしていきましょう!

専任教員

安藤　聡彦	環境教育･社会教育
北田　佳子	教師教育･比較教育
田代美江子	ジェンダー平等と教育
福島　賢二	教育問題と社会、基礎教育
山田　恵吾	日本の教育文化史
長嶺　宏作	教育政策と法

主な授業科目

教育法学概論、教育社会学概論、教育史概論、ジェンダー教育学概論、教師教育学概論、環境教育概論、環境教育フィールド･スタディ

あたり前という「眼鏡」を外し、新しい景色をみよう!

福島 賢二 准教授

教育社会学ゼミでは、教育という事象をみるうえで、それまで身につけてきた「眼鏡」を取り替える学びを行っています。例えば起立・礼という授業の号令、先生と呼ぶこと。これはあたり前の行為でしょうか。多くの大学では起立・礼はしませんし、先生という呼称を使わないゼミもあります。つまりあたり前だと思われていることにも、実はあたり前ではないことがあるのです。あたり前だという認識は、自分の経験とその経験が連続して習慣化されたなかで形成されると考えられます。そうだとすれば自らの経験と異なる経験をすることで、あたり前はあたり前でないことに気づくことができるのだともいえます。このゼミでは実物を通した多様な経験をする学習を通して、それまで身につけてきた「眼鏡」を更新します。多様な言語の学校配布物に目を通すことで、外国ルーツの親や子どもが日本語による学校配布物にどう苦しんでいるのかを考えます。経済的困窮家庭の子どもが通う学習支援教室にスタッフとして入ることで、子どもの生活の実際を見聞きし自らの貧困観を再考します。フリースクールや夜間中学を見学することで、「通常」学校といわれる「通常」観念を相対化します。農業を通じた微生物の世界を知ることで、多様性の本質や自然と共生することの意味を考えます。戦争や人権侵害の負の歴史を responsibility の観点から学ぶことで、人間の共同存在性や真の民主主義国家とは何かを考えます。

あたり前の「眼鏡」を外し、これまで見えなかった新しい景色を一緒にみませんか？

NPO法人珊瑚舎スコーレ（沖縄）の校舎2階テラスにて

NPO法人珊瑚舎スコーレ（沖縄）の生徒のひみつ基地（山がんまり）にて

地球っ子クラブ2000の代表／高柳なな枝さんを招いての多文化共生学習

NPO法人ホロコースト教育資料センター（Kokoro）の代表／石岡史子さんを招いてのホロコースト学習

フィールドで「教育」を捉え直す面白さ

安藤 聡彦 教授

社会教育 / 環境教育ゼミでは、子どもやおとなたちが生活しているフィールド（現場）を大切にし、大学とフィールドを行ったり来たりしながら「教育」を捉え直す学びを行っています。それは、フォーマル教育と言われる学校教育を重視しながらも、ノンフォーマル教育とかインフォーマル教育と言われる学校の外側での子どもやおとなたちの教育・学習も大切だと考えているからです。台湾、モンゴル、沖縄、北海道、水俣など、毎年国内外の様々な場所にでかけ、そこに暮らしている住民の皆さんや学校の先生方のお話を伺い、ときに子どもたちと遊んだり、若者たちと対話したりしてきました。過去２年あまりはコロナのためほとんど動けませんでしたが、22年度からはふたたびフィールドへのかかわりを復活させています。文献で読んで必死に考えたことがフィールドとふれることで覆されたり、フィールドにかかわるなかで感じたことが文献のなかに詳しく書かれていたりするのを発見したときの喜びというのは得がたい経験になるはずです。私たちといっしょに学んでみませんか、あなたも。

若者支援の現状についてお話を伺う@長野県長野市

勉強したあとのBBQは最高!@卒論合宿